

ふるさとの川を思いっきり楽しもう！

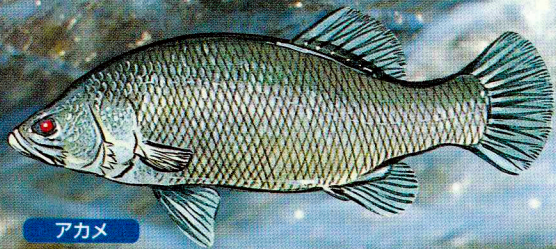
五ヶ瀬川

かのオボロマップ

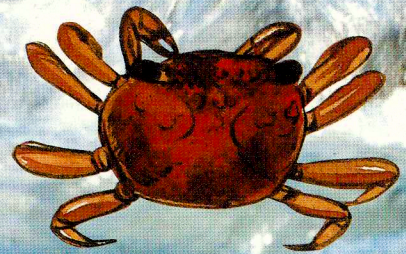
五ヶ瀬川イキイキ生き物大図鑑

第2巻「水中編」

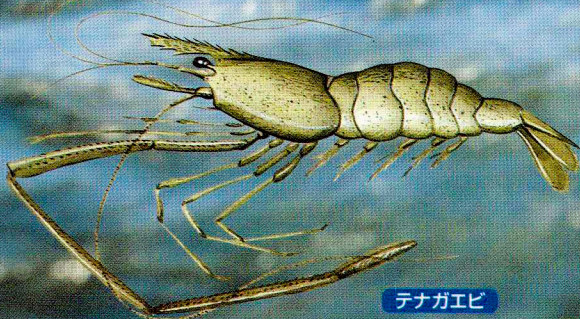
五ヶ瀬川に棲んでいる、
たくさんのお魚や底生生物
などを紹介しています。



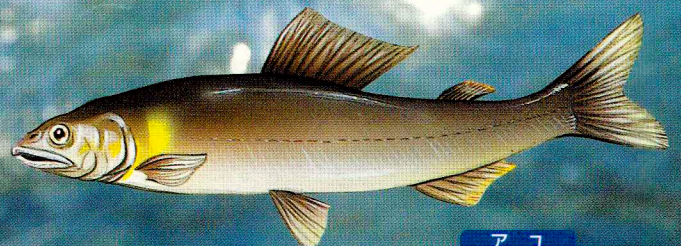
アカメ



カワスナガニ



テナガエビ



アユ

五ヶ瀬川イキイキ生き物大図鑑

水中編

五ヶ瀬川の水辺をよ〜くみてみよう!!
水中に棲んでいる魚や小さな生き物たちとの
出逢いに、たくさんの驚きや、発見、学びがきっとあるはず!

汽水域と淡水域について

淡水域 塩分を含まない水の区域。

汽水域 河口付近や海につながるところで
淡水と海水とが混じり合っている区域。

淡水域

川が比較的浅くて流れの速いところで、
水面が波立っています。瀬には、アユ、ボ
ウスハゼ、ヨシノボリなどが棲んでいます。

川の水際で、ツルヨシなどの
草木類が生息しています。こ
のため魚類の繁殖に適し、ド
ンコなどの幼魚が多く育っ
ています。

瀬

植生水際部

ワンド

河岸にできた池のような入江のこと。泥底のワンドにはギンブ
ナが棲んだり、メダカは水草を産卵床として利用しています。そ
の他にも河岸の石の下にはカゲロウなどの幼虫が棲んでいます。

淵

流れがゆるやかなところで、水深
が深いところ。水面は波立たず、
底は砂質のところが多い場所。
淵にはコイや、カワムツなどが棲
んでいます。

汽水域

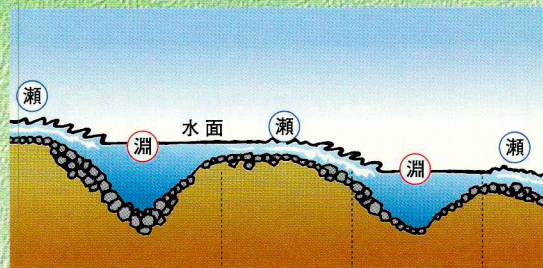
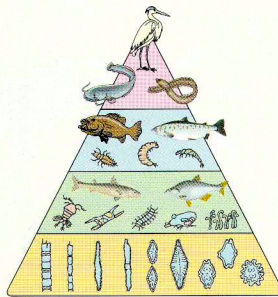
水域 (汽水域)

河口付近や海につながる部分で、淡水と海
水とが混じり合っている水域。スズキ、ヒ
ラギ、ボラといった魚などが見られます。

たくさんの生き物たちは、すべて
自然のバランスの中で生きています。

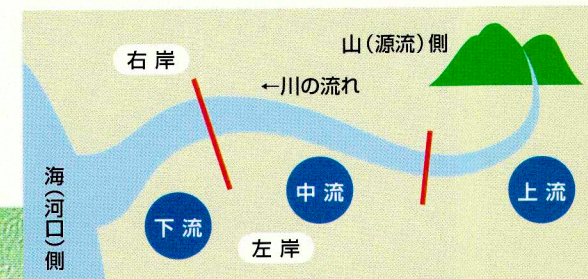
生物量ピラミッドについて

川にすむ虫や魚、鳥などの生き物は、食物連鎖として
つながっています。それぞれの量をみると左のピラ
ミッドのようになっています。小さな虫は魚に食べられ、
魚はさらに大きな魚や鳥に食べられる、といった具合
に。もし鳥や魚などがいなくなってしまうと、このつ
ながりが崩れ、やがて人間の生活基盤にも影響が出
てくるでしょう。



	瀬	淵
水深	浅い	深い
水面	波立つ	波立たない
流速	速い	ゆるい
底質	沈み石・浮き石	砂・泥など

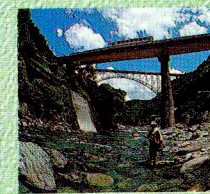
まずは川のしくみを覚えよう!



上流：高千穂峡（高千穂町）



下流：延岡大橋付近（延岡市）



中流：青雲橋（日之影町）

川は山（源流）で生まれて、途中たくさんの雨水などを集めながら大き
な流れとなり、海（河口）へと注いでいます。川は大きく分けると、山（源
流）側から「上流」「中流」「下流」の3つに分けられ、一般的に「上流」
は自然が多く、「中流」「下流」は利水や憩いのスペースなど、さまざ
まな用途で利用されています。
川の流れの方向（すなわち下流）に向かって、右側を右岸、左側を左
岸と呼びます。この呼び方は日本も外国も同じようです。

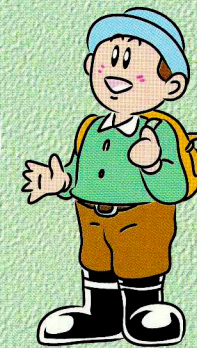
五ヶ瀬川の特徴

五ヶ瀬川は、清流河川と呼ばれ、水がとてもきれいな川です。さ
らに、山地が多く自然がとても豊か。だから生き物たちの棲みか
がたくさんあり、たくさんの種類の生き物たちが棲んでいます。

川に出かけるときは、 こんなことに気をつけよう!

基本は、夏でも長そでと長ズボン。帽子も忘れずに。でも、色は原色はなるべくやめよう。
くつは登山靴やゴム長で。荷物はリュックサックなど、必ず両手が使えるものに入れて行
こう。荷物もできるだけ少なくし、軽快に歩けるようにしましょう。川の中を歩くときは、必ず
靴をはくようにして、橋脚の近くを歩くと、根元の部分が急に深くなっているところ
があるので、注意しよう。

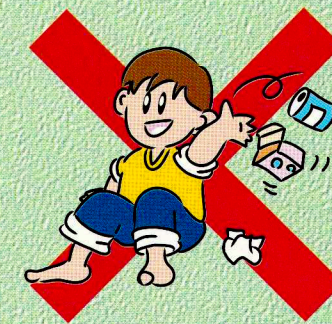
服装は?



川はみんなのものだから、
きちんと守ろう、こんなマナー。

魚を採るときは・・・

泳いでいる群れに石を投げたりしないようにしましょう。そ
して、ゴミは必ず持ち帰るように!特に、魚つりに使った
糸（テグス）は、必ず持ち帰るようにしましょう。鳥が飲
み込んだり、体に巻きついたりして危険です。また、飲
み残したジュースを川に流したりしないようにしましょう。



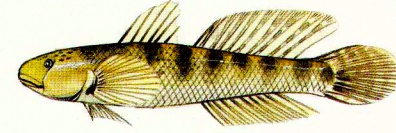
【水辺のひみつ大解剖!】

川に出かける前にマスターしよう!
川に出かけるのがグ〜ンと楽しくなるよ!

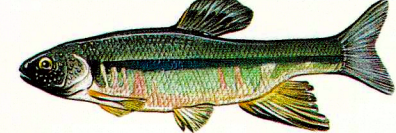
五ヶ瀬川に棲んでいる生物たち

FISHES

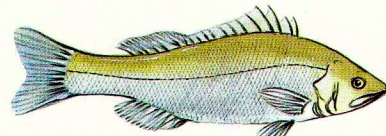
魚類



ボウズハゼ (スズキ目・ハゼ科)
 体長：約20cm
 見られる場所：上・中流
 生活型：回遊魚
 流れの速い場所に棲み、付着藻類を食べます。口と吸盤状の鰓ヒレを使って、急流の滝もよじ登ることができます。



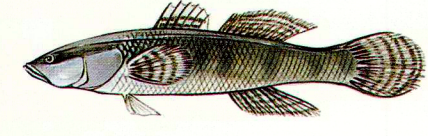
カワムツ (コイ目・コイ科)
 体長：約15cm
 見られる場所：上・中流
 生活型：淡水魚
 オイカワに似た魚ですが、体に黒色のタテ線があります。夏秋の産卵期にはあざやかな赤色になるのでアカムツともいわれます。



スズキ (スズキ目・スズキ科)
 体長：約100cm
 見られる場所：下流・河口域
 生活型：汽水魚・海水魚
 春から夏、汽水域に侵入してきます。口は大きくエビ、カニ、貝類、小魚を食べます。刺身、あらいで美味。



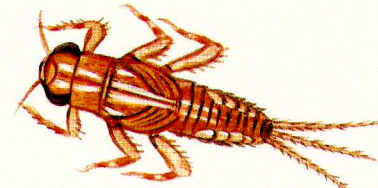
カマツカ (コイ目・コイ科)
 体長：約20cm
 見られる場所：中・下流
 生活型：淡水魚
 丸い筒型の体とはん点が特徴です。砂れきの川底に生息し、ろうと状の口を広げてエサを食べます。



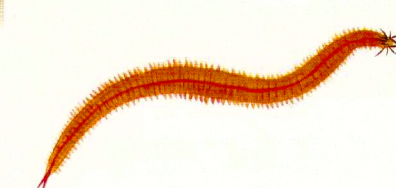
カワアナゴ (スズキ目・ハゼ科)
 体長：約23cm
 見られる場所：中・下流
 生活型：回遊魚
 大きな石やテトラポットの下などの物かげにひそみ、夜間にエビや小魚を食べます。最も大きなハゼで鰓ヒレはきょうばん状ではありません。黒潮地方の川の特徴種です。

BENTHOS

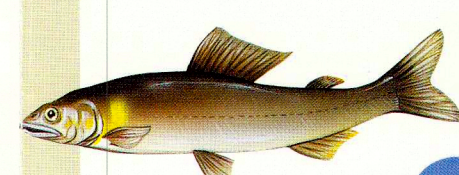
底生生物



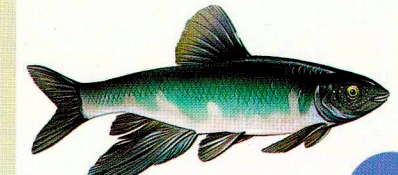
アカマダラカゲロウ (カゲロウ目・マダラカゲロウ科)
 体長：5mm前後
 日本に広く分布するカゲロウ。中流から下流にかけての早瀬の中に棲息しています。4月～6月・8月～10月と、年2回羽化期があります。



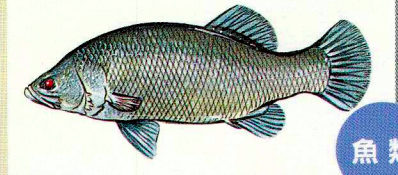
ゴカイ (サシバゴカイ目・ゴカイ科)
 体長：10cm
 淡水と海水が混じり合う河口や内湾の泥の中に棲んでいます。魚釣りの餌としてよく知られています。



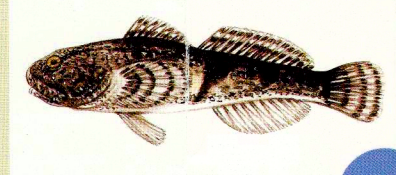
アユ (サケ目・アユ科)
 体長：18～30cm
 見られる場所：全域
 生活型：回遊魚
 日本の淡水魚を代表する魚で、「清流の女王」とも言われています。放流されることが多く、付着藻類を食べます。



オイカワ (コイ目・コイ科)
 体長：約15cm
 見られる場所：全域
 生活型：淡水魚
 雑食性で藻類、昆虫類を食べます。夏の産卵期には、赤、青を帯びた美しい色になります。



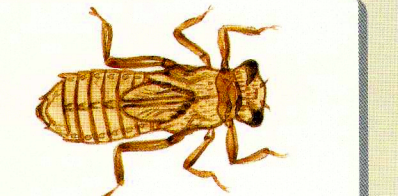
アカメ (スズキ目・アカメ科)
 体長：50～150cm
 見られる場所：河口域
 生活型：汽水魚・海水魚
 世界で高知県と宮崎県の河口域でしか見られない、天然記念物に匹敵する貴重な固有種です。眼がルビーのように赤いのが特徴。主食は小魚です。最近、非常に少なくなりました。



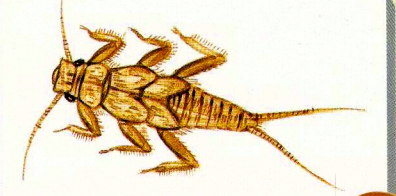
カマキリ (アユカケ) (カサゴ目・カサカ科)
 体長：15cm～20cm
 見られる場所：中・下流
 生活型：回遊魚
 成魚はアユを食べることから、「アユカケ」とも呼ばれます。秋から春にかけて、河口や海で産卵します。



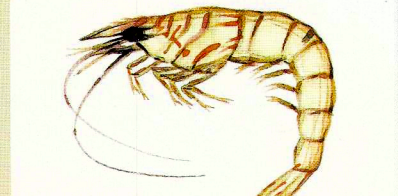
コガタシマトビケラ (トビケラ目・シマトビケラ科)
 体長：10mm
 頭の前縁にくぼみがあるのが特徴です。お腹の部分は薄緑色から茶色までさまざまです。



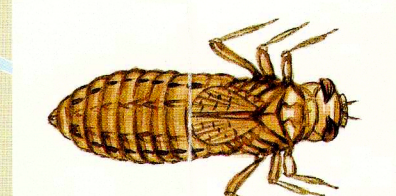
ムカシトンボ (トンボ目・ムカシトンボ科)
 体長：38～40mm
 山間の深流の水面に出ている。フキ、ウバユリなどの植物に産卵し、幼虫期間が5～8年と非常に長いことが確認されています。扁平な体つきで、表面に多くの突起があります。



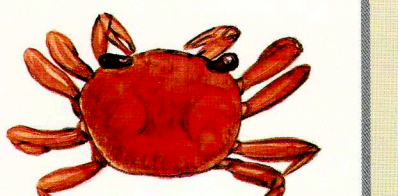
カミムラカワグサ (カワグサ目・カワグサ科)
 体長：約20mm
 上流から中流の瀬の石の下などに棲み、右面や川底を這って生活しています。頭部にあるMの形の紋様が特徴です。



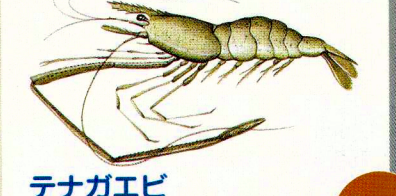
ミソレヌマエビ (エビ目・ヌマエビ科)
 体長：17～22mm
 日本海側では新潟県、太平洋側では静岡県以南に分布します。生息場所は河口や河川の下流域の緩やかな流れの中です。産卵期は6～10月でふ化した幼生は海中生活します。



オゾロサナエ (トンボ目・サナエトンボ科)
 体長：11～34mm
 河川上流域の山肌の深流に棲むトンボ。肉食で他の昆虫類や小動物を捕食します。流れの緩やかな水生植物の根本や淀みの細砂に浅く潜って生活しています。



カワスナガニ (エビ目・スナガニ科)
 甲幅：10mm前後
 静岡県以南の沿岸の河川に分布し河口の砂泥底の石の下等に生息しています。甲はほぼ六角形で、表面に小さなつばがあり、石の表面の藻類等を餌にしています。



テナガエビ (エビ目・テナガエビ科)
 体長：約90mm
 生息場所：低地の河川、湖、池沼に生息し、特に、河口域に多い
 繁殖：5月下旬～9月中旬に産卵
 はさが非常に長いのが手長エビと呼ばれる由来です。特に、オスのはさは体長の1.8倍にもなります。



	AA	A	B
PH	6.5～8.5	6.5～8.5	6.5～8.5
BOD	1mg/l以下	2mg/l以下	3mg/l以下
SS	25mg/l以下	25mg/l以下	25mg/l以下
DO	7.5mg/l以上	7.5mg/l以上	5mg/l以上
大腸菌群数	50MPN/100ml	100MPN/100ml	500MPN/100ml

魚類	説明
淡水魚	一生を淡水域のみで生活する魚
回遊魚	淡水域(あるいは海)で生まれた魚が海(あるいは淡水域)で成長し、産卵や成長のために再び淡水域(あるいは海)に戻るもの
汽水魚	一生の大部分を汽水域で過ごす魚
海水魚	一生を海水域のみで生活する魚

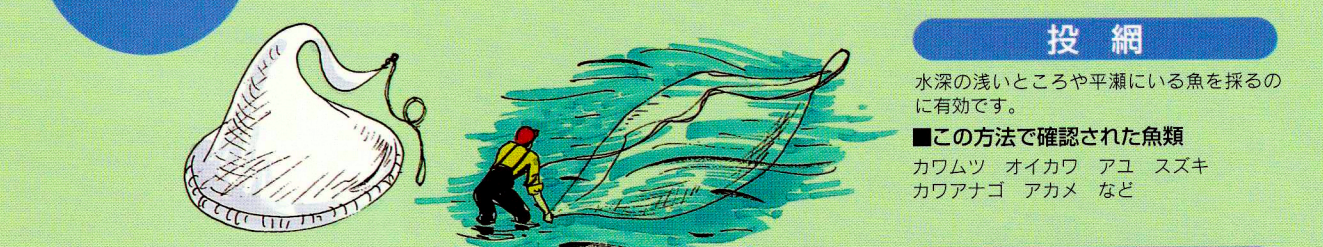
淡水域	汽水域
植生水際部	グラウンド・芝等
堤防	瀬
瀧	ワンド
水質観測地点	

いったいいくつ知っているかな？
 五ヶ瀬川にはたくさんの魚たちが！

こうやって生物の調査を行います。生物ごとに違う、主な調査のしかた

魚類

魚類の調査は投網、タモ網による調査を中心に、川の状況によってその他の方法も同時に行います。



投網
 水深の浅いところや平瀬にいる魚を探るのに有効です。
 ■この方法で確認された魚類
 カワムツ、オイカワ、アユ、スズキ、カワアナゴ、アカメ など



セルピン
 流れの緩やかなところ、小型の魚の捕獲に適しています。
 ■この方法で確認された魚類
 マチチブ、ウグイ、オイカワ、カワムツ、マハゼ、チブ など



タモ網
 石の下などに棲んでいる比較的小さい魚類を探るのに用いられています。
 ■この方法で確認された魚類
 ドンコ、カマキリ(アユカケ)、カワアナゴ

底生生物

大小のネットを使って採る方法です。
 ■この方法で確認された生物
 サツキヒメヒラタカゲロウ、クシゲダラカゲロウ、エラブタマダラカゲロウ、ヒゲナガカワトビケラ、ギフシマトビケラ、ヨシノマダラカゲロウ、マルヒラタドムシ



水辺の国勢調査
 「河川水辺の国勢調査」とは、国土交通省が全国にある109の一級河川において、川の流れの様子や川原の利用のしかたなどを定期的に調べることで、水辺にどんな生き物が棲んでいるかなど、生態系に関するいろいろな情報を集めます。



五ヶ瀬川カワナビマップは、
みなさんといっしょに作っていく、
川の情報誌です。

こんな生物を見たよ、こんな遊び場を見つけたよ!など
など、五ヶ瀬川の自然環境に関する情報をお寄せください。
もっと見やすく、さらに使いやすくパワーアップして
いく予定です。みなさんからの情報をお待ちしています。



五ヶ瀬川に関する情報
その他ご意見・ご要望などは

国土交通省 延岡工事事務所調査第一課

〒882-0803 延岡市大貫町1丁目2889

TEL (0982) 31-1155

ホームページ <http://www.qsr.mlit.go.jp/nobeoka/>

